

ウサギの後ろ足はなぜ長い

中川美穂子

スキーのリフトに乗っているとき、雪原の上に二つの横に並んだ十センチメートルくらいの長細い足跡と、その前に一つずつちよんちよんと丸い小さな足跡が二つ一列についているのを見た人も多いと思います。あれは野にいるウサギの足跡で、横に二つ並んだ長いのが後ろ足で、その前の一列のは、前足で歩いた跡です。その横一列の後ろ足の足跡と前

足との間が広ければ、ウサギが大きくジャンプした証拠です。

ウサギの後ろ足が長い！

あるとき、ウサギを抱いて撫でまわしていた子どもが、「ウサギの後ろ足が長いけど、どうして？」と聞いてきたことがあります。ウサギを眺めている

特集〈脚・足〉

だけでは、後ろ足が長いなど気づかないけれど、抱いてみると長い足が膝やかかと部分で折りたたむように曲がっているのが分かります。四脚の動物は人の腕の部分が前脚になり、脚の部分が後脚になつていますが、腕と脚の長さを比べれば、脚のほうがずっと長いのが分かるでしょう。それを四つ脚にして肩とお尻を同じ高さにするには、長い後ろ脚を曲げる必要があり、歩くときには、かかと部分を地面につけずに、つま先で歩くことになります。でもジャンプするときは、ウサギは後ろ足の裏全体で地面を踏みつけてから、この十分に曲がっている足を思いつきり伸ばし、高く飛び上ります。あるいは、早く走るために遠くまで飛んでいきます。人も同じですね。しかし、ウサギは少しでも遠く、高くジャンプできるようになります。



ほつそりした軽い背骨と前脚、そして長く強い後ろ脚を持っているのです。

後脚の蹴る力が強いということ

ウサギは肉食獣に食べられる動物です。彼らは敵に立ち向かう武器を持たず、ひたすら逃げることで身を守ります。そのために長い耳と後ろまで見通せる目をもち、鼻をヒクつかせて敵が近づく前に逃げだし、穴に潜ります。だからとても怖がりで、信頼できない人に抱かれたときは、何とか自由になろうと強い脚を蹴つて逃げようします。その蹴る力はとても強く、不幸にもその反動で自分の背骨に障害を起こすことがあります。多くは延髄の辺りに脱臼がおこるのか、キューと悲鳴を上げて、のけぞつたままたちどころに昇天してしまいます。自然界では、そのように捕まえられたウサギは死んだほうが苦痛が少ないのでしょうか？

だから、戯れにでもウサギを抱くときは、充分に優しい気持ちと態度で迫らないと、殺してしまいます。他にもウサギは、強く抱きしめられて窒息や内臓破裂で死んだり、あるいは逆に恐怖から抱いている人に噛み付いたりする事例があります。抱くときは、動物の気持ちを気遣いながら、また抱きしめる力を動物の反応を見ながら加減することが大事です。子どもたちは、この手加減・手心を、動物とのふれあいで急速に覚えますが、最初の接触のとき、動物の気持ちと体について子どもたちに伝え、抱き方を指導する専門家が必要でしょう。最初の体験を心地よくして、興味をより深く、大きくしたいものです。

月を見て跳ねる？

十五夜お月さん見て跳ねる、と唄われていますが、ウサギは敵のいる昼間は比較的姿を見せず、夜

まず良く見て、相手を知つて

普段、ケージや小屋でじっと飼われているウサギたちですが、実はお月様をボーッと見上げているときもあります。雨が降っている夜にも、穴から出てきて、じっと空に顔を向けてぬれている姿も見られるとありますか？ 十畳くらいの部屋に放すと、ウサギは走り回ります。そして、飛び上がった空中で、百八十度のターンをします。それは見事な空中転回です。勿論広い野外だつたら縦横に走り回り、盛んに飛び上ります。これは気分の良いときに見える姿で、こちらから「飛んでみて」と頼んでも実現しません。ウサギが自分の世界で楽しんでいるわけです。やはり月の光を浴びて、楽しいのだと思いませんか？人の胸もざわめくきれいな十五夜なら、なおさら興奮することでしょう。

特集 〈脚・足〉

ます。何を思つているのでしょうか？

また家庭で、飼い主が帰宅したとき、わざと物陰に隠れ、いつまでも飼い主が気付かないと、後ろ足を床にたたきつけて「トン」と音を立てることがあります。あるいは、猫などの敵がケージのそばに寄ると、この音を立てて敵を脅かすことがあります。

警戒音とも言いますが、実は好きな相手には「遊ぼ！」と、ちよつかいをかける意味もあります。また甘えたいときに、そつと飼い主の膝の横に来て、じつと撫ぜてもらうのを待つこともあります。

今多くの園でウサギたちが飼われていますが、そのウサギたちはあなたを見ると近づいてきますか？逃げますか？それは、人にどのように扱われているかを、表しています。彼らに信頼されるには、児に対すると同じように、背を低くして、目を合わせ、優しい気持ちで話しかけ、撫でさせてもらうとの気持ちが大事でしょう。彼らと付き合うには、相

手を良く見て、その気持ちや、体の弱さや体調などを察してあげることが大事です。

ところが、ウサギの後脚が長いと気づいた子が、ウサギが坂道を降りるとお尻が高く、頭があまりに低くなるのでどのようにするかを不思議がり、花壇の坂で実際にウサギにやらせてみました。一匹はさつと走り降りたけど、もう一匹のウサギは「ズズズー」とお尻で滑つて降りた！と教えてくれました。

なお、ウサギは歯が鋭いですから、鼻や口の前に指を出してはいけません。人でも、誰かがそんなところに指を突き出しきたら、噛み付きたくなるでしょう？顔の前に指を突き出すなんて失礼なことは、やめてください。ウサギに指先を食べられちゃいますよ。

（日本小動物獣医師会・お茶の水女子大学
子ども発達研究センター客員研究員）